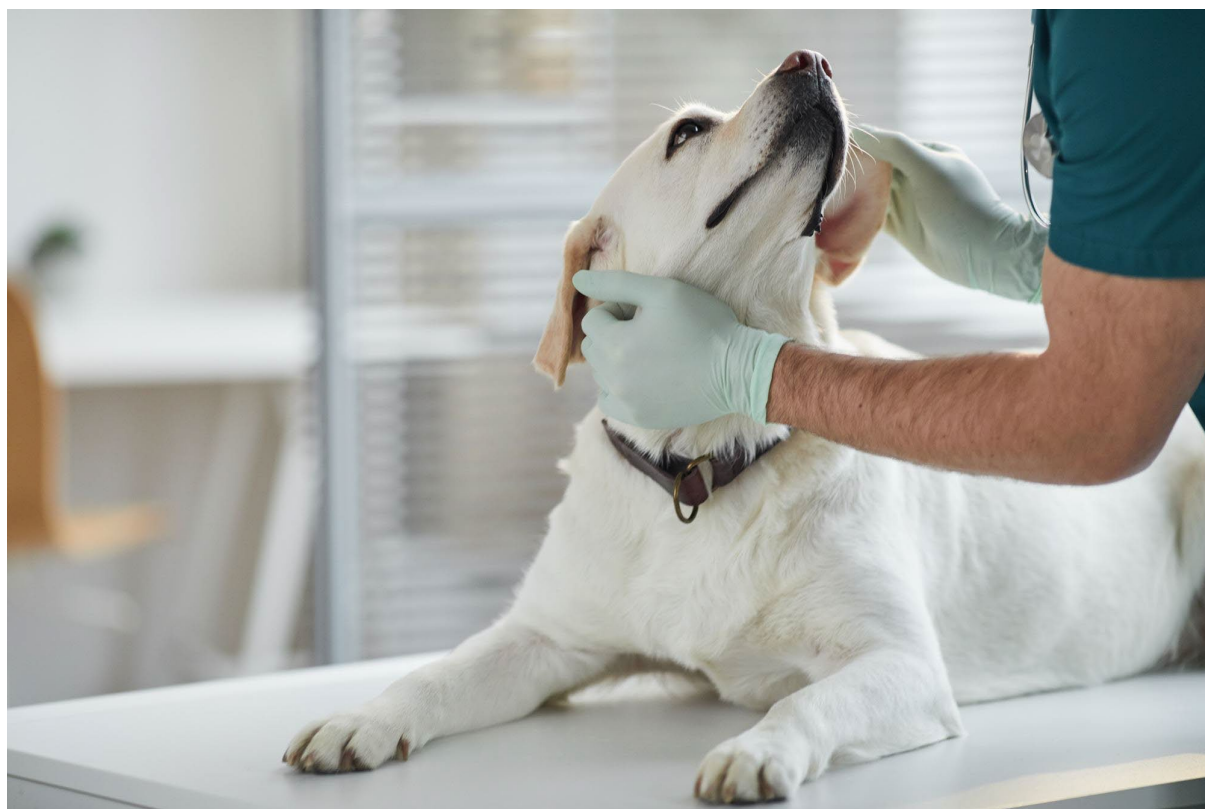


## 犬猫の避妊手術について



出典：<https://pixta.jp/photo/74771912>

当院の犬猫の避妊手術は、主に腹腔鏡を用いて行う内視鏡（腹腔鏡・胸腔鏡）外科手術を行っています。本ページでは、当院の腹腔鏡による避妊手術の方法や、メリット・デメリットをご紹介しますので、どのように避妊手術を行うのか迷っている方は参考にしてみてください。

## 犬猫の避妊手術について

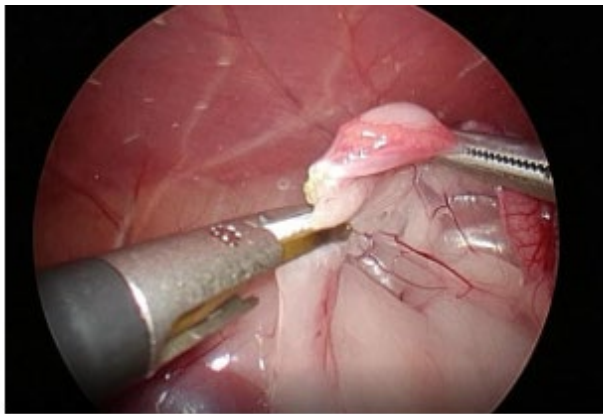
犬猫の避妊手術は、子宮や卵巣を摘出する手術です。一般的に腹腔鏡手術あるいは開腹手術の2種類の手術方法があります。

妊娠を望まない場合、避妊手術を行うことによって、生殖器関連の病気の予防（子宮蓄膿症や乳腺腫瘍など）やホルモンによる問題行動の抑制につながります。

## 腹腔鏡による避妊手術

当院では犬猫の避妊手術は主に腹腔鏡を用いて行っております。年間約150症例ほど実施しており、熟練した獣医師及び看護師が手術にあたります。合併症や術後の問題は非常に少ない手術です。

腹腔鏡下避妊手術は、5mmの傷口を3か所作ることで手術を行います。熟練した術者が行うことで、開腹手術よりも傷口や痛みが小さく、安全で確実な手術方法であると考えています。お腹を拡大された鮮明な視野のため、腎臓、小腸、尿管などの周囲臓器が容易に視認でき、それらの臓器の損傷を防ぐことができます。



左側の卵巢動静脈をエネルギーデバイスで切離しているところ

## 腹腔鏡手術のメリット

### 小さな傷で手術を行うことができる

- 術後の痛みが少なく、動物の回復が早い
- 特にハイリスクな動物への負担が少ない
- 入院期間を短くすることができる

### お腹の中の湿潤環境を保つことができる

- 胃腸の回復が早い
- 手術後の癒着が少ない

### 拡大された鮮明な視野を得ることができる

- 繊細な手術を行うことができる
- 手術中の情報を共有することができる

## 腹腔鏡手術のデメリット

### 熟練した技術が必要である

- 鉗子操作が難しい
- 2次元の画像での手術のため遠近感が得にくい
- 止血への対処が難しい
- 手術時間が長くなる傾向にある

## 犬猫の避妊手術の相談は当院へ

大切な家族の避妊手術は身体に負担がかかるものなので、手術について理解した上で、その子に合った方法を選ぶことが大切です。受けさせるべきなのか、手術の時期や術後の生活など、気になる点も多いと思います。まずは、当院のスタッフまでご相談ください。